フレッシュ

無限の可能性が…

網野大介（高61回）

●あみの・だいすけ
飯田高校61回卒。現在中央大学商学部会計学科2年。中央大学経理研究所にて公認会計士の資格取得を目指している。バトミントンのサークルにも所属。松川中学出身。

僕は、「公認会計士になる」という大きな目標のために、弁護士や公認会計士試験に力を入れている中央大学に入学しました。公認会計士は、専門性が非常に高い職業です。そのため会計士の知識を得るための学習には多大な努力が必要であり、その試験に合格するのはとても大変なことです。

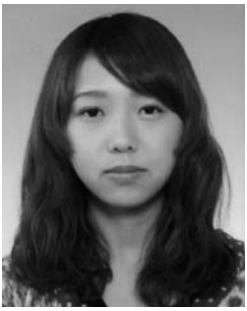
それでも一年次は、会計士の勉強はそれほど忙しくなく、ある程度自由な時間があったので、サークルにも積極的に参加したり、サークル仲間や同じ学科の友達と遊んだりと、とても充実した、高校の頃思い描いていた「大学生」らしい一年間を送ることができました。しかし二年生になると、いよいよ勉強が忙しくなり、遊ぶ時間はもちろんサークルに参加する時間すら満足に作れなくなりました。

辛いと感じることもありますが、僕が中央大学を選んだのは公認会計士になるためだから、ここで止めるわけにはいかない。絶対合格のため、勉強中心の生活に変えていきました。幸いにも、大学には同じ目標を持って頑張っている仲間が沢山いて、設備も充実しており、周りには支えてくれる人もいます。特に、学費はもちろん、勉強に集中するためアルバイトをしなくてもいいように仕送りをしてくれている両親にはとても感謝しています。

僕は、大学生には無限の可能性があると思っています。大学生活は四年間あるし、それまでの義務教育とは違って自由な時間が増えるので、自分がやりたいことをとことんできます。しかし人生のモラトリアムとも言われるこの四年間は、長いようであっという間に過ぎてしまうでしょう。そんな貴重な四年間を何もせずにただただ過ごすのはもったいない。自分自身の可能性を信じて、これからも公認会計士に向けて更なる努力を積み重ね、立派な社会人になりたいと考えています。

変化を感じている

原　愛実（高61回）



●はら・まなみ
飯田高校61回卒。現在明治大学法学部2年生。現在はサッカーサークルと今年創業75周年を迎える明治大学カメラクラブに所属。飯田東中学出身。

トーク

渋谷って本当にあるんだ～なんて間抜けなことを思っていた一年前の自分。そんな自分を思い出すと少し笑えてしまうくらい、最近は東京での一人暮らしにも慣れてきた。大好きな飯田と家族から離れて一年以上も経過した今、自分の中に小さなものであるが、「変化」を感じている。

特に、変わったことといえば、「家族」だったり「故郷」なんていう言葉にめっぽう弱くなった気がする。よく、故郷は遠くにありて思うもの…なんて言われるが、今の私はそれを身をもって感じている。先日、母から段ボール二つ分ものたくさんの荷物が届いた。開けてみると、私が最近忙しすぎて自炊をできていないことを知ってか知らずか、たくさんの缶詰やらお米やらが溢れんばかりに詰め込まれていた。たったそれだけのことなのになんだか胸が一杯になって、思わず泣きそうになってしまう自分がいた。

こういった瞬間、ふと自分自身が大人になったことを感じる。離れて暮らしてみて、自分がどれだけ父や母に大切にされていたかわかった気がする。そして私自身も、そばにいないからこそ家族のことがなおさら心配になったり、いとおしく思う瞬間が増えた。家族への感謝の気持ちや愛情を素直に感じたり、伝えられるようになることが、その人が大人になったという一つの証であるのではないかと思う。

なんだかこんなことばかり書いていると、東京での大学生活を楽しんでいないかのように心配されそうだが、自分でもこんなに幸せでいいのだろうか?と思ってしまうぐらい、私は今の生活が楽しい。最近は、自分の夢に向かって少しずつ歩み始めて、充実した日々を送っている。「大学時代は人生の夏休み」なんていうが、私はこの素晴らしいモラトリアムの時間を精一杯駆け抜けたいと思う。